

関西福祉大学

図書館だより

Information Wave No.20 2009年

第20号

2009年9月20日発行

関西福祉大学図書館

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3

Tel.0791-46-2506

Fax.0791-46-2535

私と図書館

学長 岸井 勇 雄



図書館長から「図書館だより (No.20)」原稿執筆のお願いが届いて青くなった。そこには(例)「私と図書館」とあるではないか。

実は、仮にも学長として大胆な告白をすると、私に

とって、この世の中でいちばん落ち着かない、いや、居たくない嫌いな場所、それが図書館なのである。

大学の卒業論文をはじめ、それからの研究生活や教師としての仕事にとって、無くてはならない図書館、すっかりお世話になっている図書館だというのに、どうして嫌いなのかというと……

学生の時、駒場、本郷、さらに国会図書館と資料を尋ね回るうち、ある時ゾツとしたのだ。それは、巨大な書庫に収められている何百万冊の蔵書から、次々に、いや一斉に、声をかけられた気がしたのだ。「一体お前は、ここにあるオレタチ(本)のうち、何冊読んだことがあるんだ?」と。

これは厳しい問いかけだった。返す言葉がなく、書庫の中で立ちすくむほかなかった。これがトラウマになっての図書館恐怖症なのだ。

読書は大好きである。小説をはじめとする文学には、それぞれ自分とは異なる人間の生活や内面が描かれていて、共感したり参考になったりする。学術的な専門書には、自分ではとても調べることのできないことまで記述されていて、新しい情報を仕入れ、

知識を増やす。

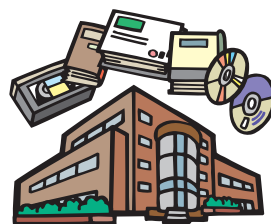
これらのことを、すべて直接の人間関係から学ぼうとしたら、時間をはじめ、お互いの都合を合わせなければならないのであるから到底不可能である。

本は、自分の都合の良い時だけ、相手をしてくれ、こちらのわがままな要求に全面的に協力してくれるのではない。こんなありがたい話はないのだ。

さらによく考えてみれば、酸素を含む大気は、人間が生きていくために無くてはならないものだ。だからといって、すえるだけ吸っておこうと努力して空気を吸う人はいない。必要なだけ自然に吸うようにできている。これは実にありがたいことだ。

「食物はみな人の命のために天地の神の作り与え拾うものぞ、何をたべるにも飲むにも、ありがたく頂く心を忘れなよ」のみ教えの通り、食べ切る、吸い切る、よりも、毎日今の自分に必要なだけ頂くことが大切なのではないだろうか。

こう考えるようになって、やっと図書館恐怖症は軽くなったが、それでも、そんな言い逃れは許さないぞという強迫観念がどこかにあって、内側から怠慢を脅かす。私にも多分良心の苛責というものがあるのだろう。



著書紹介

現代社会福祉行財政論－社会保障をどうするか－

(坂本忠次著、大学教育出版、2009年4月刊)

社会福祉学部 教授 坂 本 忠 次



本書は、現代の社会保障・社会福祉を取り巻く行財政の諸問題と課題について8つの章で検討を加え論じました。福祉行財政や地域福祉計画は、社会福祉士試験の科目にも加えられ重要視されています。今日、日本経済においては未曾有の経済不況の中で各種の格差が顕在化しています。派遣社員を含む非正規労働者の雇用打ち切りが大きな社会問題となり、人間の尊厳をおびやかす、人権を侵害する頻繁な事件や事例が数多く見られます。

本書では、このような問題状況を前提に、第1章では、北九州市に象徴される生活保護行政をめぐる課題についてまず論じました。第2章では、前章でのイギリスの救貧行政にはじまる福祉の歴史を前提に、明治の「恤救規則」にはじまるわが国の戦前・戦後の社会保障・社会福祉の財政の歴史と特徴を概観しました。第3章で社会福祉・社会保障をめぐる行財政の体系を、国（一般会計と年金などの特別会計）、地方（普通会計と国民健康保険などの事業会計）及び福祉をめぐる国・地方の政府間関係などを中心に検討しました。

第4章以下では、これを年金保険財政、介護保険財政（制度見直し後の諸問題）、医療費・介護費と在宅福祉のあり方、少子化予算と自治体を取り巻く子育て支援の課題などを中心に具体的に検討していきました。例えば、見直し後の介護保険の現状に

ついては、岡山市や倉敷市、赤穂市などから資料をいただきその事例について調査し、今後の課題について述べました。そうして、1人当たりの老人医療費が全国1少ない長野県の在宅福祉・医療の事例を検証しました。少子化と子育て支援では姫路市のケースや指定管理者制度、市民企画提案事業などを取り入れている倉敷市などの事例を紹介しました。

本書執筆の意図の一つは、第8章の「新しい公共」の役割をめぐる課題にあります。今日、社会福祉学の分野で社会的排除と包摂化の問題が大きな課題となっていますが、これに関連してヨーロッパでは、福祉国家を担う主体が多様性を持つ中で、「官」に対する「民」における「新たな公共」の役割が早くから論議されてきています。この点にふれた後、わが国での「新しい公共」をめぐる論議を紹介、地域福祉におけるフォーマルセクターとあわせてインフォーマルセクターの役割を検討、市民団体の新たな公共的な役割—社会福祉協議会、NPO、福祉協同組合、社会的企業などの今後の地域福祉に果たす役割を検討し展望しました。なお、付録に、わが国の社会保障・社会福祉関係年表を記し学習の参考にしました（大学教育出版、2009年4月刊、246ページ）。

青少年・若者の自立支援－ユースワークによる学校・地域の再生

(柴野昌山著、世界思想社、2009年9月刊)

社会福祉学部 教授 柴 野 昌 山



自立とは、親から独立し、みずからの力で立つことである。人間が自立するということは、人間の一人前のひとつの段階であるが、口でいうほど簡単なものではない。自立するためには、それにふさわしい適切な状況が必要なのである。90年代に入って、日本の教育状況は経済界と同様に自由化、規制緩和、グローバル化のなかで、学校教育の役割が公共社会の形成であるという前提を喪失し、そこで生じたさまざまな教育問題を心理主義的な方向で解決しようとする風潮を生み出した。「カウンセリング・マインド」の教育も本来児童・生徒の自己成長を支える、「ゆとり」の教育と同じ方向をめざすべきであるにも拘らず、一種の対療法に陥っている。自己適応を基軸とする人間主義的な自己成長モデルは、たしかに混迷する社会を切り拓く力にもなるが、「心」の教育だけでは不十分なのである。青少年・若者の自己と社会変革のための基本的条件は、心理主義に陥ることなく、グループというセーフティーネットの創出を前提にしなければならない。本書は、「ボランティアなグループ参加が、人間を育てる」という考え方にたって、青少年・若者が抱える自立への現代的課題と

その困難性を多角的に考案しようとしている。そのための理論は、実際的方法が、ユースワークなのである。

ユースワークは、イギリスで産業革命後の青少年問題に対応するため、ボランティアな社会事業として生まれた「ユースサービス」の方法的技法であるが、グループワークの方法と統合して、近年労働党政権の青少年支援策として脚光を浴びてきている。本書では、子どもの集団活動、学校での生徒指導、青少年活動センター等の支援に注目するとともに、いじめとメディア、若者のキャリア形成、職業指導のあり方、非正規労働の問題等を取り上げている。さらに昨今問題とされているデッドDVや親密な関係性のなかの性暴力をジェンダーと権力の視点からも考察している。同時に市民として一人前になるためには、シティズンシップ獲得から「排除」されている現代を変える必要がある。そのためにもボランティアな集団参加による社会への働きかけとそれぞれの自己成長が求められているのである。

DVD『婦人科へ行こう！貴女のヘルスチェックのために』

(斉藤早苗 制作・著作、制作協力 堺ウィメンズヘルス研究所、撮影・編集 映像発信てれれ、2008年制作)

看護学部 准教授 斉藤早苗

皆さんは、セクシュアル／リプロダクティブヘルスという言葉を知っていますか。

性と生殖に関する健康という意味です。「人間の生殖システム、その機能活動過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に良好な状態(well-being)にあること」と定義されています(1994年カイロ国際人口・開発会議)。

性の健康というのは、人間にとって大切なことです。QOL(生活の質)の維持・向上のためには疾患の予防のみならず、健康状態の管理、早期発見・早期治療が重要です。そのサポートの一翼として「婦人科」があります。でも「婦人科って？」と二の足を踏む女性が多いのが現状です。

今回のDVDは、自分の体のことが気になっているA子が、婦人科受診行動をとる意志決定をするまでを映し出しています。



内容は、婦人科の特徴、受診した方がよい気になる症状、診察や検査の特徴、プライバシーの保護、受診時の準備について理解できるようになっています。
制作にあたって

は、社会的学習理論の自己効力感を用いています。自己効力感とはある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという個人の確信、すなわちある行動を起こす前に個人が感じている「自己遂行可能感」(坂野と東條、1993)です。個人自らが効力感を作りだしていくには、4つの情報源(1)「制御体験」、(2)「代理的経験」、(3)「言語的説得」、(4)「生理的情動の状態」がありますが、このDVDでは「代理的経験」である他人の行為を観察すること、他の人が成功した様子から「自分もできる」という自己効力感を促すことと、「言語的説得」である自己教示や他者からの説得的な暗示、つまり成功できると思われるような言語による励ましやどのようにしたらできるかの情報を主に用いて、婦人科受診行動の自己効力感を高めることを意図しています。

脚本は私が書き、出演者、撮影スタッフは全員女性と、「女性の視点」で制作することに留意しました。多くの女性にご覧頂き、「婦人科」を肯定的に受け入れ、受診行動につながることを願っています。また、男性にも見て頂き、パートナーをサポートして頂けますように。

映写時間約13分。



新時代の保育双書「乳児保育」

(大橋喜美子編、株みらい、2009年5月刊)

社会福祉学部 講師 松尾寛子

本書は保育者を目指す学生が、思春期を見通し、胎児期から乳児期の心や体の発達について、筋道を追って学べる乳児保育のテキストである。

乳児保育のテキストはたくさんある中、乳児期だけではなく、胎児期のことにまでさかのぼって学べるテキストは少ない。保育者を目指す学生自身も実習以外で子どもとのかかわりが少ないという現代の状況を踏まえ、胎児期の育ちがあり乳児期前半の姿があるということを押さえることができるようにという願いが込められているためである。

また発達の節目となるとどこをいかに的確に見出すことができるか、保育者の視点で必要な発達の節目について、細部にわたって学ぶことができるように構成されている。

さらに10代で親になる人への対応、少子化の影響できょうだいの数が少なく子どものことをあまり知らずに親になる人々たちに対する保護者支援など、保護者対応が複雑化する今、保育者の資質向上を目指しての評価の方法や多様な保育サービスの現状も含め、保育所保育指針の改訂に伴った内容に沿いつつ、より専門的な内容にまで踏みこんでいる。

本書の章立ては次の通りである。

- 第1章 乳児の保育と思春期の育ち
- 第2章 愛されて育つということの意味
- 第3章 胎児の世界と謎
- 第4章 乳児期の発達
- 第5章 乳児期の生活と保育
- 第6章 乳児期の環境と人間関係
- 第7章 乳児期の保育課程と指導計画
- 第8章 保育の記録と評価の方法
- 第9章 伸びやかさを育てる遊びと保育
- 第10章 乳児期の児童文化と遊び
- 第11章 地域における子育て支援
- 第12章 様々な発達の考え方
- 第13章 乳幼児健診による早期発見・早期療育と保育の役割



井深八重の生涯に学ぶー“ほんとうの幸福”とは何か

(中村 剛著、あいり出版、2009年7月刊)

社会福祉学部 講師 中 村 剛



本書は、ハンセン病に罹り社会から排除された人びとに、看護婦として寄り添い生涯を捧げた井深八重さんを探り上げ紹介しています。そして、その生涯を通して“ほんとうの幸福”とは何であるのかを考察しています。なぜ、井深八重さんなのでしょう。そして、ほんとうの幸福について考えるのでしょうか。その理由を、冒頭で説明しています。

「自分らしさ、自分探し、そして自己実現。多くの人が“自分”に夢中である。そして、ほんとうの自分や自分の幸福を追い求める夢の中にいる。しかし、その夢には決定的に欠落しているものがある。それは他者である。夢とは違い現実には他者がいる。私たちは他者と共に生きている。しかし、他者を、具体的には他者の苦しみや他者の幸福を見失ってしまっている時代を私たちは生きているのではないだろうか。筆者には、そう思えてならない。だから、井深八重なのである。どういうことか。(…中略…)

自分に夢中な私たちは、井深とはあまりに隔たったところで暮らしている。それゆえ、井深の生涯を理解することに困難を覚える。しかしながら幸いなことに、井深の生涯に触れたとき、そこには感動に似た不思議な気持ちが込み上げてく

る。私たちにもまだ、そのような感性は残っている。

井深八重を探り上げる理由は、この気持ちを糸口にして、自分中心の夢から醒め、他者と出会うためである。他者と出会うことができたとき、他者の苦しみに関わり、他者の幸せを願うことができるのではないか。おそらく、この時はじめて、ほんとうの幸せについて考えることが可能となると思うのである。」

アメリカの『タイム』に、日本のマザーテレサと紹介されるほどの人ですが、自らを語らないため、井深八重さんを知る人は多くはいません。しかし、社会福祉や看護を学ぶみなさんには、是非、井深八重と出会ってほしいと思います。そこには、感動に近い気持ちが沸き起こるでしょう。そして、その気持ちが、これまで囚われてきた“幸せ”に対する見方を解き放ってくれるかもしれません。

本書が、みなさんと井深八重さんとの間に、邂逅（自らの根源を揺さぶられるような出会い）とでもいえる出会いをもたらすきっかけとなれば、何よりも嬉しく思います。



今回紹介させていただいた図書以外で、本学教員が執筆した図書は下記のとおりです。なお、2008年7月以降に発行された図書に限らせていただきました。すべて、図書館にご寄贈いただいております。どうぞ、ご利用ください。

教員名	書 名	出版社	出版年月
八窪 清	障がい児教育と家庭教育－家庭教育論集－	ふくろう出版	2009年3月
小河 育恵	臨時実習のための治療・回復過程援助論	ふくろう出版	2009年4月
中村 剛	人生福祉学に学ぶ“かけがえのなさ”の再発見	あいり出版	2008年9月
中村 剛	福祉哲学の構想－福祉の思考空間を切り拓く	(株)みらい	2009年9月

本学教員推薦図書



看護学部 准教授 伊 豆 一 郎

書 名	著者名	出版社	発行年
臨床におけるナルシズム－新たな理論	ネヴィル・シミントン 北村婦美・北村隆人（訳）	創元社	2007
ブッダとそのダンマ	B.R アンベードカル 山際素男（訳）	光文社	2004
欲望について	ウィリアム・B.アーヴァイン 竹内和世（訳）	白揚社	2007

社会福祉学部 講師 松 尾 寛 子

書 名	著者名	出版社	発行年
かあちゃん	重松 清	講談社	2009
あとの祭り 親友はいますか	渡辺淳一	新潮社	2009
キュウリは真っ直ぐじゃないといけないの？	栗井宏美	ヴィレッジブックス	2007
お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい	向野幾世	扶桑社	2002

看護学部 助教 磯 村 由 美

書 名	著者名	出版社	発行年
絵でみる脳と神経 －しくみと障害のメカニズム（第3版）	馬場元毅	医学書院	2009
実践医事法学	金川琢雄	金原出版	2008
高齢者の生活史事典 －音楽療法・回想法に活かす	大湊幸秀	日総研出版	2005

『現代の社会福祉—人間の尊厳と福祉文化—』

日本経済論社刊、2009年、A 5 版、255ページ

本書は、現代の社会福祉をめぐる様々な課題が生起する中で、「そもそも社会福祉の原理とは何か。実践や政策にどう活かしていくのか。政治や経済などに左右されないようなこれからの社会福祉のありかたを考える」（本書の帯封）趣旨で出版された。当初社会福祉学部開設（本学創立）10周年を記念して前荒木学長の時代に企画されたものであるが、その後計画が延び延びとなって2年後の今日ようやく実現をみたものである。本書は、岸井学長のあいさつ、はしがきにつづき3部12章に分かれ、以下の構成となっている。

第1部 社会福祉学の根源から考える

第1章 社会福祉における尊厳と福祉文化の創造—尊厳・ハビトス・福祉文化—	中村 剛
第2章 現代社会福祉における人権問題	平松 正臣
第3章 メタ福祉学の構想—社会福祉の意味と認識—	丸岡 利則
第4章 ベストロッチーの教育思想と「福祉」の原理—教育と福祉の原理的融合を求めて—	光田 尚美

第2部 実践の原理と原理にもとづく実践

第5章 地域福祉体系化への序説—学究諸家に学ぶ視座と確認—	谷川 和昭
第6章 ソーシャルワークにおける自己決定問題	岩間 文雄
第7章 高齢者介護家族のストレス分析—家族システム論的見地から—	一瀬 貴子
第8章 「福祉文化」論への課題—社会福祉史の研究を通して—	岩本真佐子
第9章 音楽と福祉—収容所における音楽療法—	古瀬 徳雄

第3部 これからの社会福祉を展望する

第10章 障害者自立支援法と障害者福祉	谷口 泰司
第11章 社会保障論の基礎視座—人間発達とスウェーデンモデル—	藤岡 純一
第12章 現代の社会福祉と「新たな公共」—社会的包摂と社会的企業の役割—	坂本 忠次

上記のとおり、本書は社会福祉の原理、実践、政策の分野について論じ、その統合化を図り、最終目標を福祉文化に求めている。開学12年目に大学院社会福祉学研究科も開設されたが、このような機会に12名の研究者による共同執筆の著書が誕生できたことを共によりこぶと共に、本学教職員・学生の皆さんの一読と忌憚のないご批判を仰ぎたい（坂本忠次記）。

視聴覚資料の利用について

視聴覚書架には空ケースを並べていますので、利用したい資料のケースと利用者カードをカウンターへお持ちください。
著作権法に基づき、DVD・ビデオなどの映像資料は館外貸出はできません。館内AVコーナーでご鑑賞ください。

< 注 意 事 項 >

- 録音・録画は著作権を保護するために認められていません。
- 教員が、講義等で利用される場合は、カウンターにご相談ください。

編集後記

いよいよ夏休みも終わり、後期が始まりました。夏の思い出はできましたか？

最近では朝夕とても過ごしやすくなり、この夏8月の過去最低気温を記録したようです。気温の変化で体調を崩さないよう気をつけてくださいね。

今回、図書館だよりは20号を迎えました。5人の先生方から著作本紹介をしていただき、3人の先生方から良書を紹

介していただきました。読書の秋ですので、図書館でゆっくりと読書の時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

現在、図書館では学生用パソコンの増加を検討しています。少しでも多くのみなさまが使用できるようになればと思います。そして蔵書検索や相互利用サービスなど、分からないことがあれば気軽にスタッフにお尋ねください。これからも、みなさまの学習のお役に立てるよう努めていきますので、よろしく願いいたします。(N)